

大学場面で必要とされる会話の種類とその横断的推移についての一考察 ー日本語学習者の会話ニーズ調査の結果よりー

松本 剛次, 金 銀美
梓沢 直代, 幸松 英恵
東京外国語大学博士前期課程ⁱ

1. はじめに

現在本学(東京外国語大学)で作製が進められているウェブ教材「TUFUS-D (dialogue) モジュール」もそうであるがⁱⁱ、会話教材の多くは機能シラバスによるものである。機能シラバス自体とその基盤ともなっているオースティン(1962)の発話行為論については、ある発話に対してある特定の機能を割り当てることは困難であるという事実が指摘されたりⁱⁱⁱ、行為は発話者の発話によるのではなく聞き手の推論による解釈に依存する^{iv}という意見が提示されたりするなど批判もあるが、少なくとも初級段階の外国語学習者にとっては、まず必要なのは自分の意思を出来るだけ単純な形で伝える「行為」としての発話方法の習得であり、その意味で機能シラバスによる会話教育は未だ有効であると考えられる。

それでは、その機能というものはどのぐらいあるのだろうか。この問題については機能(あるいは発話行為、遂行動詞、発話意図)のリストアップと整理・分類という形でこれまでもいくつかの試みが行われている^v。しかし、先に機能シラバス、発話行為論に対する批判の例としてあげたように、ある発話に対してある機能を割り当てるという機能の判定も非常に困難なものであるということとも関連して、未だにこれという答えは出ていない。機能の数に関してはオースティン自身も遂行動詞の数は10の3乗オーダーに及ぶだろうと述べているように、恐らくその数は無数であると思われる。そうなると、機能シラバスに基づく会話教材の作成ということを考えて場合、我々に出来ることは、すべての機能の網羅的なリストアップと整理ではなく、その教材が対象とする学習者の学習場面・学習目的に限定させた形でのある程度大枠での機能の取り出しと、その整理ではないだろうか。本研究はそのような考えの下に行われたニーズ調査の結果の分析とその結果からの考察である。

2. リサーチクエスチョン

本研究は TUFUS-D モジュールのシラバスの見直しを行うための資料となることを目指し

ⁱ 所属は本調査が行なわれた 2003 年時点のものである。

ⁱⁱ TUFUS-D モジュールについて詳しくは Yuki, Abe & Lin(2003)、林・結城・阿部・長沼(2004)を参照のこと。

ⁱⁱⁱ 例えば Sadock(1974)は命令文の多義性を、R.Lakoff(1976)は音韻的特長の多義性を報告している。

^{iv} 代表的なものとして Sperber&Willson(1986)の関連性理論が挙げられる。

^v 例えば、Mundy(1978)、Searle(1979)、Back and Harnish(1979)、vanEk&Alexander(1980)、Brundell,Higgins&Middlemiss(1982)などが挙げられる。

ているものである。TUFSD モジュールは基本的に外国語を学ぶ大学生を対象としたもの^{vi}で、スキットの場面も主に大学場面を中心にしたものに設定されている。現在のところ、TUFSD モジュールにおいては 17 言語において共通のものと考えられる汎言語的な 40 の機能を設定し会話スキットの単位として使用している。この 40 の機能は「2002 年度の東京外国語大学語学研究所定例研究会での結城健太郎（第 1 回）、松本剛次（第 2 回）、長沼君主（第 4 回）による言語機能、シラバスに関する一連の調査を踏まえて選定された」（松本 2003）ものである。そのため、この 40 機能が D モジュールの構成単位として適当なものかどうかという問題についてある程度は保障されていると言える。しかし、その適切性の根拠となっているものは機能シラバスの理論にせよ、テキストのシラバス分析にせよ、未だ研究者側、教師側からの視点によるもののみであることもまた事実である。では、大学生が外国の大学で外国語による生活を送る場合、そこで必要とする会話としてはどのようなものがあるのだろうか。そして、それは目標言語の習得が進むにつれ、どのように変わっていくのだろうか。これが本研究のリサーチクエスチョンである。

3. 方法

3-1. データ収集方法

本研究は基本的に外国でその言語を学ぶ学習者（大学生）はどのような会話を身につける必要を感じているか、を調べるニーズ調査である。ニーズ調査の方法としては、インタビューと質問紙調査(アンケート)がその代表的なものとして挙げられる。本研究では、インタビューでは時間がかかるという現実的な問題と、できるだけ広く、そして後に統計的な処理を行うことも想定して、それが出来るようなデータを得る必要があるという理由から質問紙調査をデータ収集の方法として採用した。

質問紙は被験者の属性等について答えてもらう部分(パート I)と、各タイプの会話の習得の必要度について 1～5 の 5 段階評価で答えてもらう部分 (パート II)、そして対話相手による困難度について 1～5 の 5 段階で答えてもらう部分(パート III)から構成されている。

パート I はいわゆるフェイスシートの部分であり、年齢、性別、母語等のいわゆる「属性」に加え、外国語学習歴、学習の目的等についても尋ねている。後にこれらの違いと必要と感じている会話機能との間に統計的な有意差が出るかを調べる事が出来るようにである。

パート II が本研究の中心である会話のニーズ（その会話技能の習得の必要性をどの程度感じているか）に関する部分である。会話の種類分類としては TUFSD モジュールが機能シラバスを採用しているという理由から「機能」で分けることとし、Van Ek(1976)による *The Threshold level for Modern Language Learning in Schools* の *Index of Language-functions for threshold level* での 80 項目から「尋ねる／答える」をペアとして一つにした 58 項目を採用した。Van Ek(1976)による分類を採用した理由は、これが機能

^{vi} 英語の D-module は年少者を対象としている。

シラバスの出発点である Willkins(1976)より細かく、そして後の発展形である Mundy(1978)、van Ek&Alexander(1980)、Brundell,Higgins&Middlemiss(1982)ほどは細かすぎず、アンケート調査の量として適切であったという現実的な理由^{vii}と、後のシラバス研究でも何度も引用されており、機能シラバスの代表の一つと考えられたからである。先に述べたように、網羅的な機能のリストアップと分類というのはほぼ不可能であり、本研究の目的でもない。本研究は大枠ながら大学場面で必要と思われる会話機能の抜き出しと整理を図るものであり、それには Van Ek(1976)の分類で十分であると考えた。

パートⅢは、補足的ではあるが、対話相手との関係による会話の困難度を見るためのものである。これは予備調査の結果見えてきた、同じ機能の会話でも話し相手によって会話のやりやすさややりにくさ(困難度)が異なる、ということを確認するためのものである^{viii}。これに関する調査は本研究のメインの目的ではないが、後にこれについても考察を行うこととする。

なお、この質問紙が完成するまでには数回にわたる予備調査とその結果を踏まえての修正作業が行われている。最終的な質問紙が完成したのはそれらを踏まえての 5 回目の修正の後であり、それを用いての最終的な予備調査も行い、問題が見られなかったことを確認している。

3-2. 被験者

大学生が、外国の大学で外国語による生活を送る場合、そこで必要とする会話としてはどのようなものがあるのだろうか。そして、それは目標言語の習得が進むにつれ、どのように変わっていくのだろうか、という本調査のリサーチクエスチョンに対応させて、日本に来て、日本語を学習している大学生(予備教育の段階も含む)を日本語能力別に3グループに分けて被験者とした。まず、第一のグループは日本語学習経験がほぼ無い状態で来日し、現在、留学生日本語教育センターで日本語の予備教育を受けている、日本語能力は初級と判断される学生群である。本研究ではこの学生群を「留日センター生」と呼ぶことにする。2003年4月に来日し、アンケートは2003年8月末に実施された。第二のグループは既に日本語を母国等で学習しており来日後のプレイスメントテストの結果、中級・中上級と判定された、1年間の留学プログラムで来日している学生群である。本研究では、このグループを指すのにそのプログラムの名称を用い「ISEP・日研生」という用語を用いる。アンケートは来日後授業が開始された月である10月の末に行われた。そして第三のグループは、既に正規の学部生として大学の日本課程に留学し、日本語での授業に参加しており、日本語能力は上級と判断される学生群である。本研究ではこの学生群を指すのに「学部生」という用語を用いる。それぞれのグループの被験者数を表で示すと以下のようになる。

^{vii} 予備調査での段階ではより細かい機能分類が採用されたが、回答者から質問項目が多すぎると言う声
が上がり、回答の信頼性を高めると言う意味でも項目数を減らすこととした。

^{viii} 予備調査の段階では被験者に自由記述回答も求めていた。

表 1：各グループの被験者数

グループ名	被験者数	日本語レベル
留日センター生	4 2	初級
ISEP・日研生	3 3	中級
学部生	2 1	上級

ここで注意しておきたいのは、まず、本調査の被験者数はまだ十分に多いとは言えないということ、本研究はあくまで日本語を学習している大学生のみを対象としているということである。本研究は現在 17 言語で進められている TUFSS-D モジュールのシラバス修正の一助となるものを目指している。そのためには結果の一般化の可能性を高めるために、被験者数は多いに越したことはなく、日本語以外のデータもとる必要があるであろう。残念ながら今回はそれは行なえず^{ix}、今後の課題である。今回の結果からの過度の一般化はできないということについては以下留意して議論を進めていく。

3-3. 分析方法

本調査は既に何らかの仮説があり、それを検証するための調査ではなく、むしろ、どのような傾向が見られるのかを探索的に取り上げ、何らかの仮説を抽出しようという仮説生成型の調査である。本調査で使用した質問紙では、フェイスシートの部分で学習者の属性について尋ねており、母語、学習歴、滞日経験、性別、などさまざまな観点からの分析ができるものとなっている。しかし、今回は本研究のリサーチクエスチョンに対応する部分のみを分析の対象として、仮説生成型という本調査の目的から日本語能力別に分けた各グループの会話のニーズの特徴を調べ、さらにそれを横断的に見た場合どのような変化が見られるのかについて調査することとした。そのため、統計的検定などの仮説検証を目的としたツールは敢えて使用していない。

具体的には、会話のニーズの特徴については各グループごとに質問紙のパートⅡ（会話技能の習得の必要度）とパートⅢ（対話相手による困難度）の回答の平均と標準偏差をみることによって、そして横断的な変化については各項目ごとにその平均の推移をグラフすることによって、まずは数量的にその特徴を概観することとした。そしてそれらの結果を踏まえて、「考察」のところより詳しく、今度は質的な方向からの分析を行った。

4. 結果

4-1. 会話技能の習得の必要度

4-1-1. 留日センター生（初級グループ）

^{ix} しかし、日本でスペイン語を学習している大学生を対象に、スペインに留学した場合を想定しての今回と同じアンケートは実施してある。今後この分析を今回の日本語学習者のデータと対照させる形で進める予定である。

このグループではほとんどの項目の平均が 5 段階中 4（「かなり習得の必要性を感じている」）以上で、ほとんどすべての項目について習得の必要性を感じている。標準偏差も比較的小さく、項目内でも回答にそう大きなばらつきが無い。

表 2. 各項目の会話に対する留日センター生の習得の必要度の平均

	平均	標準偏差
1 事実・情報の確認をする。	4.40	0.80
2 なんらかの事実について人に報告をする。	4.14	1.00
3 訂正をする。	4.29	0.97
4 事実・情報について尋ねる／質問する。	4.56	0.78
5 自分の意見について賛成か反対か尋ねる。	4.24	0.94
6 他者の意見について自分は賛成か反対か述べる。	4.52	0.92
7 何かを否定する。	4.14	1.16
8 何かを提案したり相手を誘う。	4.05	0.94
9 提案や誘いを受ける。	3.98	1.00
10 提案や誘いを断る。	4.17	1.06
11 自分の提案や誘いが相手に受け入れられたか否かを確認する。	4.12	0.77
12 （基本的に自分のために）何かをすることを申し出る。	4.24	0.88
13 何かや誰かについて知っているかどうか尋ねる／答える。	4.19	0.89
14 何かや誰かを覚えているかどうか尋ねる／答える。	4.19	0.77
15 何かができるかどうか尋ねる／答える。	4.26	0.91
16 能力の有無について尋ねる／答える。	4.10	0.91
17 あることが論理的に考えられることかどうかを尋ねる／答える。	4.15	0.99
18 それがどの程度確かか・不確かかについて尋ねる／答える。	4.05	0.91
19 自身にとってそれが義務であるか義務ではないかについて尋ねる／答える。	4.24	0.96
20 第三者にとってそれが義務であるか、義務ではないか、ということ を尋ねる／答える。	4.02	1.01
21 許可を求める。	4.38	0.85
22 許可することを伝える。	4.05	0.76
23 許可しないことを伝える。	4.07	0.78
24 好き嫌いについて尋ねる／答える。	3.95	0.91
25 興味があるかないかについて尋ねる／答える。	4.12	0.89
26 驚きを表明する。	3.83	1.17
27 希望を述べる。	4.26	0.96

28	満足しているかどうか尋ねる／答える。	4.19	0.92
29	恐れや不安について尋ねる／答える。	4.23	0.95
30	二つ以上の物や人、事柄についてどちらが好きか尋ねる／答える。	4.12	0.93
31	感謝の気持ちを伝える。	4.48	0.77
32	同情の気持ちを伝える。	4.36	0.73
33	意図・計画について尋ねる／答える。	4.31	0.81
34	欲求・望みについて尋ねる／答える。	4.36	0.76
35	詫びる。	4.57	0.70
36	許す。	4.19	1.06
37	承認するということを伝える。	4.05	0.85
38	承認しないということを伝える。	4.21	0.81
39	相手が承認するか否か尋ねる。	4.45	0.89
40	賞賛する。	4.19	0.83
41	残念であるという気持ちを伝える。	4.29	0.99
42	無関心である・興味が無いということを伝える。	4.17	0.86
43	一連の動作を提案する（話し手も含む）。	4.21	0.72
44	何かをしてもらうことを依頼する。	4.51	0.78
45	人に何かをするように誘う、促す。	4.45	0.67
46	人に何かをするように助言する。	4.48	0.67
47	人に何かに気をつけたり、慎んだりするように警告する。	4.29	0.92
48	人に何かをするように指示する。	4.31	0.75
49	（相手のために）手伝いを申し出る。	4.15	0.88
50	援助・協力を求める。	4.40	0.91
51	挨拶する・声をかける。	4.07	1.11
52	人と出会って挨拶する。	4.19	1.11
53	人を紹介される／自己紹介をする。	4.31	0.87
54	別れの挨拶をする。	4.19	0.97
55	人の注意を引く・注意を引くために呼びかける。	3.98	1.09
56	乾杯の時などの挨拶・簡単なスピーチをする。	4.21	0.84
57	お祝いの言葉をかける。	4.21	0.98
58	食事の開始の挨拶をする。	4.10	0.98

4-1-2. ISEP・日研生（中級グループ）

中級であるこのグループでは平均が4点台という項目はなく、ほとんどが3点台（少し習得の必要性を感じている）である。また、標準偏差は、先の初級のグループと比べると

大きく、これは各項目の回答に幅（個人差）があることを示している。

表3. 各項目の会話に対する ISEP・日研生の習得の必要度の平均

	平均	標準偏差
1 事実・情報の確認をする。	3.42	1.25
2 なんらかの事実について人に報告をする。	3.39	1.14
3 訂正をする。	3.48	1.23
4 事実・情報について尋ねる／質問する。	3.67	1.34
5 自分の意見について賛成か反対か尋ねる。	3.55	1.30
6 他者の意見について自分は賛成か反対か述べる。	3.58	1.32
7 何かを否定する。	3.03	1.29
8 何かを提案したり相手を誘う。	3.09	1.23
9 提案や誘いを受ける。	2.94	1.27
10 提案や誘いを断る。	3.06	1.22
11 自分の提案や誘いが相手に受け入れられたか否かを確認する。	3.15	1.23
12 (基本的に自分のために) 何かをすることを申し出る。	3.52	1.18
13 何かや誰かについて知っているかどうか尋ねる／答える。	2.97	1.33
14 何かや誰かを覚えているかどうか尋ねる／答える。	2.94	1.37
15 何かができるかどうか尋ねる／答える。	3.00	1.30
16 能力の有無について尋ねる／答える。	2.94	1.37
17 あることが論理的に考えられることかどうかを尋ねる／答える。	3.33	1.31
18 それかどの程度確かか・不確かかについて尋ねる／答える。	3.39	1.25
19 自身にとってそれが義務であるか義務ではないかについて尋ねる／ 答える。	3.58	1.15
20 第3者にとってそれが義務であるか、義務ではないか、ということ 尋ねる／答える。	3.48	1.25
21 許可を求める。	3.45	1.39
22 許可することを伝える。	2.97	1.33
23 許可しないことを伝える。	3.12	1.32
24 好き嫌いについて尋ねる／答える。	2.91	1.44
25 興味があるかないかについて尋ねる／答える。	3.03	1.36
26 驚きを表明する。	3.33	1.27
27 希望を述べる。	3.36	1.37
28 満足しているかどうか尋ねる／答える。	3.21	1.22
29 恐れや不安について尋ねる／答える。	3.42	1.12

30	二つ以上の物や人、事柄についてどちらが好きか尋ねる／答える。	3.15	1.30
31	感謝の気持ちを伝える。	3.30	1.33
32	同情の気持ちを伝える。	3.52	1.20
33	意図・計画について尋ねる／答える。	3.15	1.28
34	欲求・望みについて尋ねる／答える。	3.12	1.32
35	詫びる。	3.66	1.21
36	許す。	3.44	1.37
37	承認するということを伝える。	3.16	1.22
38	承認しないということを伝える。	3.25	1.24
39	相手が承認するか否か尋ねる。	3.47	1.22
40	賞賛する。	3.41	1.32
41	残念であるという気持ちを伝える。	3.53	1.27
42	無関心である・興味が無いということを伝える。	3.22	1.31
43	一連の動作を提案する（話し手も含む）。	3.22	1.16
44	何かをしてもらうことを依頼する。	3.50	1.22
45	人に何かをするように誘う、促す。	3.41	1.13
46	人に何かをするように助言する。	3.59	1.21
47	人に何かに気をつけたり、慎んだりするように警告する。	3.59	1.13
48	人に何かをするように指示する。	3.63	1.16
49	（相手のために）手伝いを申し出る。	3.41	1.24
50	援助・協力を求める。	3.47	1.29
51	挨拶する・声をかける。	2.94	1.50
52	人と出会って挨拶する。	3.06	1.39
53	人を紹介される／自己紹介をする。	3.09	1.35
54	別れの挨拶をする。	2.97	1.40
55	人の注意を引く・注意を引くために呼びかける。	2.84	1.22
56	乾杯の時などの挨拶・簡単なスピーチをする。	3.53	1.16
57	お祝いの言葉をかける。	3.22	1.29
58	食事の開始の挨拶をする。	3.00	1.44

4-1-3. 学部生（上級グループ）

このグループでは、2点台の「あまり習得の必要を感じていない」が17項目と多く、また、平均点が3.5を超えているのも3項目のみであり、習得の必要性はもう、そう強くないことがわかる。しかし、標準偏差について見てみると、初級学習者群に比べるとそれは比較的大きく、各項目に対する回答にはばらつき（個人差）が大きいと言える。

表4. 各項目の会話に対する学部生の習得の必要度の平均

	平均	標準偏差
1 事実・情報の確認をする。	3.14	1.49
2 なんらかの事実について人に報告をする。	3.19	1.40
3 訂正をする。	3.43	1.25
4 事実・情報について尋ねる／質問する。	3.14	1.31
5 自分の意見について賛成か反対か尋ねる。	3.48	1.25
6 他者の意見について自分は賛成か反対か述べる。	3.57	1.12
7 何かを否定する。	3.14	0.91
8 何かを提案したり相手を誘う。	3.00	1.17
9 提案や誘いを受ける。	2.76	1.26
10 提案や誘いを断る。	3.24	1.18
11 自分の提案や誘いが相手に受け入れられたか否かを確認する。	3.05	1.36
12 (基本的に自分のために)何かをすることを申し出る。	3.29	1.15
13 何かや誰かについて知っているかどうか尋ねる／答える。	2.57	1.29
14 何かや誰かを覚えているかどうか尋ねる／答える。	2.45	1.39
15 何かができるかどうか尋ねる／答える。	2.67	1.56
16 能力の有無について尋ねる／答える。	2.71	1.23
17 あることが論理的に考えられることかどうかを尋ねる／答える。	2.86	1.39
18 それがどの程度確かか・不確かかについて尋ねる／答える。	2.95	1.43
19 自身にとってそれが義務であるか義務ではないかについて尋ねる／ 答える。	3.00	1.41
20 第三者にとってそれが義務であるか、義務ではないか、ということ を尋ねる／答える。	3.05	1.50
21 許可を求める。	3.33	1.39
22 許可することを伝える。	2.57	1.16
23 許可しないことを伝える。	2.65	1.14
24 好き嫌いについて尋ねる／答える。	2.57	1.12
25 興味があるかないかについて尋ねる／答える。	2.57	1.21
26 驚きを表明する。	3.00	1.26
27 希望を述べる。	3.19	1.25
28 満足しているかどうか尋ねる／答える。	3.05	1.24
29 恐れや不安について尋ねる／答える。	2.95	1.24
30 二つ以上の物や人、事柄についてどちらが好きか尋ねる／答える。	2.71	1.23

31	感謝の気持ちを伝える。	3.48	1.44
32	同情の気持ちを伝える。	3.38	1.40
33	意図・計画について尋ねる／答える。	3.14	1.46
34	欲求・望みについて尋ねる／答える。	2.86	1.35
35	詫びる。	3.71	1.31
36	許す。	3.00	1.38
37	承認するということを伝える。	2.95	1.24
38	承認しないということを伝える。	3.00	1.18
39	相手が承認するか否か尋ねる。	3.29	1.42
40	賞賛する。	3.05	1.24
41	残念であるという気持ちを伝える。	3.19	1.40
42	無関心である・興味が無いということを伝える。	2.43	1.21
43	一連の動作を提案する（話し手も含む）。	3.00	1.30
44	何かをしてもらうことを依頼する。	3.38	1.40
45	人に何かをするように誘う、促す。	2.71	1.15
46	人に何かをするように助言する。	3.19	1.12
47	人に何かに気をつけたり、慎んだりするように警告する。	3.19	1.17
48	人に何かをするように指示する。	3.05	1.16
49	（相手のために）手伝いを申し出る。	3.19	1.36
50	援助・協力を求める。	3.29	1.38
51	挨拶する・声をかける。	3.14	1.42
52	人と出会って挨拶する。	3.29	1.35
53	人を紹介される／自己紹介をする。	3.38	1.36
54	別れの挨拶をする。	3.43	1.40
55	人の注意を引く・注意を引くために呼びかける。	3.05	1.36
56	乾杯の時などの挨拶・簡単なスピーチをする。	3.43	1.21
57	お祝いの言葉をかける。	3.62	1.24
58	食事の開始の挨拶をする。	3.33	1.32

4-2. 「対話相手による困難度」について

4-2-1. 留日センター生（初級グループ）

このグループでは友人と話すときにはそう困難を感じていないものの、それ以外のものと話をするときには3点台であり、「少し」困難を感じている。

表5. 対話相手による留日センター生の会話の困難度の平均

	平均	標準偏差
親しい日本語母語話者の友人と話すとき。	2.70	1.16
それほど親しくない友人・知人の日本語母語話者と話すとき。	3.55	1.08
ちょっと道を聞くなど見知らぬ人に日本語で話しかけるとき。	3.31	1.22
これから付き合いが始まるであろう日本語母語話者と初めて話すとき。	3.78	1.12
授業をとっている(とったことのある)日本語母語話者の教師と話すとき。	3.13	1.30
授業をとっていない(とったことのない)日本語母語話者の教師と話すとき。	3.64	1.33

4-2-2. ISEP・日研究生(中級グループ)

このグループでも、友人と話すときは困難を感じていないものの、それ以外のものと話すときにはまだ「少し」困難を感じている。

表6. 対話相手による ISEP・日研究生の会話の困難度の平均

	平均	標準偏差
親しい日本語母語話者の友人と話すとき。	2.19	0.93
それほど親しくない友人・知人の日本語母語話者と話すとき。	3.00	1.08
ちょっと道を聞くなど見知らぬ人に日本語で話しかけるとき。	3.03	1.28
これから付き合いが始まるであろう日本語母語話者と初めて話すとき。	2.97	1.06
授業をとっている(とったことのある)日本語母語話者の教師と話すとき。	3.31	1.15
授業をとっていない(とったことのない)日本語母語話者の教師と話すとき。	3.47	1.08

4-2-3. 学部生(上級グループ)

このグループでは、友人と話すときには困難を感じていない上に、それ以外のものと話すときでも2点台であり、対話相手が誰であっても「あまり」困難を感じていないということになる。

表7. 対話相手による学部生の会話の困難度の平均

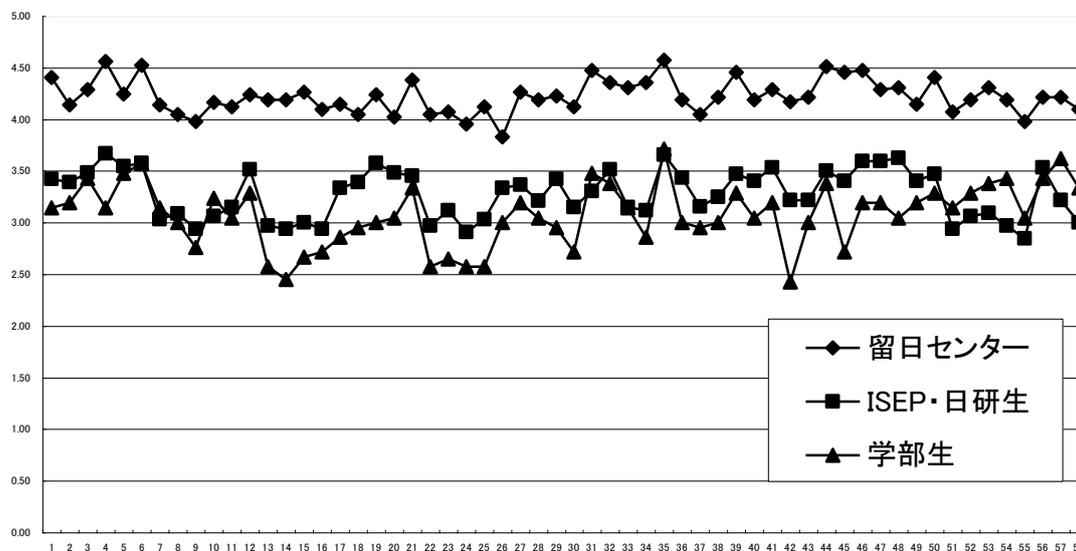
	平均	標準偏差
親しい日本語母語話者の友人と話すとき。	1.81	0.81
それほど親しくない友人・知人の日本語母語話者と話すとき。	2.57	1.03
ちょっと道を聞くなど見知らぬ人に日本語で話しかけるとき。	2.24	1.00
これから付き合いが始まるであろう日本語母語話者と初めて話すとき。	2.43	0.93

授業をとっている（とったことのある）日本語母語話者の教師と話すとき。	2.62	1.07
授業をとっていない（とったことのない）日本語言語母語話者の教師と話すとき。	2.71	1.06

4-3. 横断的調査

4-3-1. 「会話技能の習得の必要度」の変化

すべての項目において、留日センター生の平均より ISEP・日研究生、学部生は下回っており、日本語力が上がるにつれて、各項目の習得の必要度は下がっていることが分かる。しかし、中級と上級とでは、上級の学生の方が、習得の必要度を高くつけている項目もある。また、初級と中級はそのグラフがほぼ平行しているのに対し、上級はそうになってはいないこと、更に、初級、中級グループでは、項目間の平均点数の差はそう大きくは無いものの、上級グループでは項目間の点数の差が大きいことが見て取れる。

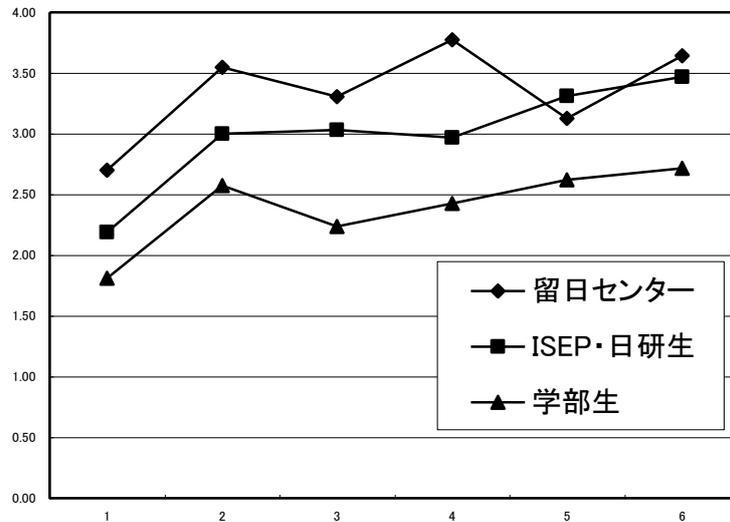


グラフ1. 各項目の会話の習得の必要度の変化

4-3-2. 「対話相手による困難度」の変化

ほとんどの項目で中級、上級と日本語能力が上がるほど困難度も減っているが、5番目の項目である「授業をとっている（とったことのある）日本語母語話者の教師と目標言語で話すとき」については中級である ISEP・日研究生の平均点が初級である留日センター生のそれを上回っている。

また、中級グループと上級グループのそれぞれの項目の得点には平行関係が認められるが、初級グループはそうになっていないことが見て取れる。



グラフ 2. 対話相手による会話の困難度の変化

5. 考察

以上、各グループの回答傾向と、それを横断的に捉えた場合の変化過程を見てきた。この結果から、当然と言えば当然のことであるが、日本語の習得が進むにつれて、全体的に会話技能を習得する必要性を感じることも減ってきていることが分かる。しかし、グループごとに見てみると、それぞれのグループで習得のニーズの高いものは異なっている。また、項目別に見てみると、初級から中級の段階にかけて習得のニーズが大きく減るものもあれば、上級の段階になってから初めて習得のニーズが減るもの、また、中級の段階では一度下がったニーズが、再び上級の段階で上がるようなものもある。以下、そのようなニーズの変化の過程をグループごとの観点と項目ごとの観点から詳しく見ていく。

5-1. 初級から上級までの各段階での「ニーズ」の変化について

次の表は、各グループでのニーズの高いもの 10 項目を上から順位順に並べて比較したものである。

表 8. 各グループでのニーズの高い上位 10 項目

留日センター生(初級)	ISEP・日研生(中級)	学部生(上級)
1 事実・情報の確認をする。	41 残念であるという気持ちを伝える。	44 何かをしてもらうことを依頼する。
50 援助・協力を求める。	56 乾杯の時などの挨拶・簡単なスピーチをする。	53 人を紹介される／自己紹介をする。
39 相手が承認するか否か尋ね	5 自分の意見について賛成か	3 訂正をする。

	る。	反対か尋ねる。	
45	人に何かをするように誘う、 促す。	6 他者の意見について自分は 賛成か反対か述べる。	54 別れの挨拶をする。
31	感謝の気持ちを伝える。	19 自身にとってそれが義務であ るか義務ではないかについて 尋ねる／答える。	乾杯の時などの挨拶・簡単な 56 スピーチをする。
46	人に何かをするように助言す る。	46 人に何かをするように助言す る。	5 自分の意見について賛成か 反対か尋ねる。
44	何かをしてもらうことを依頼す る。	47 人に何かに気をつけたり、慎 んだりするように警告する。	31 感謝の気持ちを伝える。
6	他者の意見について自分は 賛成か反対か述べる。	48 人に何かをするように指示す る。	6 他者の意見について自分は 賛成か反対か述べる。
4	事実・情報について尋ねる／ 質問する。	35 詫びる。	57 お祝いの言葉をかける。
35	詫びる。	4 事実・情報について尋ねる／ 質問する。	35 詫びる。

まず、初級である留日センター生から見ていきたい。グラフ1を見れば分かるように、この段階では、すべての項目が一律にニーズが高く、平均がほぼ4.0から4.5の間に収まっている。表8に示したものはその中でも上位のベスト10であるが、これを見ると「事実・情報の確認をする」「援助・協力を求める」「相手が承認するか否か尋ねる」「人に何かをするように誘う、促す」「何かをしてもらうことを依頼する」「事実・情報について尋ねる／質問する」など大学生活を送る上で必要な、「大学でのサバイバルのための機能」について習得の必要性を感じていることが分かる。この段階での「習得の必要性」というものは「まだうまくできないから身につけたい」というものではなく（この段階ではすべてが一律にできないのだから）「まずはこれを身につけて、サバイバルしたい」というものであると考えられる。

次に中級である ISEP・日研生を見てみる。この段階に来ると、先にあげたような「サバイバルのために必要」という項目は減り（「身につける」ことができたと考えられる）代わりに「自分の意見について賛成か反対か尋ねる」「自身にとってそれが義務であるか義務ではないかについて尋ねる／答える」「人に何かをするように指示する」など、それまでの受身的な立場とは変わったより積極的、能動的な行動のための会話と、「残念であるという気持ちを伝える」「人に何かに気をつけたり、慎んだりするように警告する」などのような相手に対する気遣いの会話に対するニーズが上位に上がってきていることが確認できる。また、ここでは「乾杯の時などの挨拶・簡単なスピーチをする」が2番目に来ているが、これは日本語能力の伸びと共に、今までは周囲から期待されなかったこのような活

動が期待されるようになることを（あるいは既になっていることを）学習者自身が自覚しているからではないかと考えられる。このようなことから、この中級の段階では学習者によるニーズの意味合いが初級者の「これが必要」というものから、「これができるようになりたい」という希望・願望へと変わってきていると考えられる。

最後に上級グループである学部生を見てみる。中級段階から高かったニーズを引き継いでいる項目もいくつかあるが、この段階に特徴的で、ある意味予想外の結果であるのは、上級レベルになると、「人を紹介される／自己紹介をする」「別れの挨拶をする」「お祝いの言葉をかける」など、比較的単純で、人付き合いの基本とも考えられ得るような項目がニーズの上位に入っていることである。また、「何かをしてもらうことを依頼する」「感謝の気持ちを伝える」という初級段階では上位 10 項目に入っていたものの中級段階では圏外となった項目も再び入っているが、これらも「人付き合い」や「円滑なコミュニケーション」という枠組みでくれるものである。3 番目に入っている「訂正をする」もそこには自分の非を認めるという行動も入ってくることを考えると、やはり「円滑なコミュニケーション」を意識してのことであろうと考えられる。これらのことから、この上級の段階では単なる「目的の達成」といったものを超えて、相手への配慮をしたうえで人間関係をよくしていくような円滑なコミュニケーションができるようになりたい、というニーズを学習者は持つようになる、と考えられる。また、初級から上級までを通して高いニーズの項目として「他者の意見について自分は賛成か反対か述べる」「詫びる」があるが、これらもやはり「相手への配慮」が関わってくるものである。

5-2. 習得の進むタイプの会話と、進まないタイプの会話ーニーズの下がり具合から

次に各機能単位で、それぞれの習得はどう進むのかについて考察してみる。ここでは「ニーズが低くなった」ということを「学習者はその習得の必要性を感じなくなった」＝「習得が進んだ」とみなして考察を進める。

グラフ 1 を見て分かるように、すべての項目で初級の学生群より、中級・上級の学生群のニーズは少なくなっている。しかし、そのニーズの下がり方を見ると、各機能を次の 4 つのグループに分類することができる。

- I. 中級の段階でニーズが下がり、その後安定、または更にニーズが下がるもの（便宜的に平均点が 1.0 ポイント落ちた段階で「ニーズが下がった」と判定する。）
- II. 中級の段階では下がりきらず上級の段階になってニーズが下がったと考えられるもの（中級ではまだ平均点が 1.0 下がっていないが、上級になると初級からは 1.0 ポイントの低下が認められるもの）
- III. 中級の段階で一度ある程度ニーズが落ちたが、その後上級で再びニーズが上がっているもの。
- IV. 中級の段階でも上級の段階でもニーズは落ちているが、初級と上級の間平均点

で 1.0 ポイントの差が認められないもの。

以下にそれぞれのタイプ別に表で示しながらその特徴について考察していく。

表 9. タイプ I（中級の段階でニーズが下がり、その後安定、あるいは更に下がる機能）とその平均点

	留日セン ター生	ISEP・日研 生	学部生
9 提案や誘いを受ける。	3.98	2.94	2.76
13 何かや誰かについて知っているかどうか尋ねる／答える。	4.19	2.97	2.57
14 何かや誰かを覚えているかどうか尋ねる／答える。	4.19	2.94	2.45
15 何かができるかどうか尋ねる／答える。	4.26	3.00	2.67
16 能力の有無について尋ねる／答える。	4.10	2.94	2.71
22 許可することを伝える。	4.05	2.97	2.57
24 好き嫌いについて尋ねる／答える。	3.95	2.91	2.57
25 興味があるかないかについて尋ねる／答える。	4.12	3.03	2.57
33 意図・計画について尋ねる／答える。	4.31	3.15	3.14
34 欲求・望みについて尋ねる／答える。	4.36	3.12	2.86
43 一連の動作を提案する（話し手も含む）。	4.21	3.22	3.00
44 何かをしてもらうことを依頼する。	4.51	3.50	3.38
45 人に何かをするように誘う、促す。	4.45	3.41	2.71

表 9 はタイプ I と判定された項目の一覧である。これらの項目は比較的早い時期で習得されるものであると考えられる。会話的にも比較的単純でターンのやりとりも少ない質問や情報のやりとり、あるいは依頼、勧誘、が多い。これらのやりとりは比較的頻繁に大学内で行われており、また、そう複雑な表現を必要としないため、習得が早いのではないかと考えられる。

表 10. タイプ II（上級の段階でニーズが下がったと考えられる機能）とその平均点

	留日セン ター生	ISEP・日 研 生	学部生
1 事実・情報の確認をする。	4.40	3.42	3.14
4 事実・情報について尋ねる／質問する。	4.56	3.67	3.14
8 何かを提案したり相手を誘う。	4.05	3.09	3.00
11 自分の提案や誘いが相手に受け入れられたか否かを確認する。	4.12	3.15	3.05

17	あることが論理的に考えられるかどうかを尋ねる／答える。	4.15	3.33	2.86
18	それがどの程度確かか・不確かかについて尋ねる／答える。	4.05	3.39	2.95
19	自身にとってそれが義務であるか義務ではないかについて尋ねる ／答える。	4.24	3.58	3.00
21	許可を求める。	4.38	3.45	3.33
23	許可しないことを伝える。	4.07	3.12	2.65
27	希望を述べる。	4.26	3.36	3.19
28	満足しているかどうか尋ねる／答える。	4.19	3.21	3.05
29	恐れや不安について尋ねる／答える。	4.23	3.42	2.95
30	二つ以上の物や人、事柄についてどちらが好きか尋ねる／答える。	4.12	3.15	2.71
36	許す。	4.19	3.44	3.00
37	承認するということを伝える。	4.05	3.16	2.95
38	承認しないということを伝える。	4.21	3.25	3.00
39	相手が承認するか否か尋ねる。	4.45	3.47	3.29
40	賞賛する。	4.19	3.41	3.05
41	残念であるという気持ちを伝える。	4.29	3.53	3.19
42	無関心である・興味が無いということを伝える。	4.17	3.22	2.43
46	人に何かをするように助言する。	4.48	3.59	3.19
47	人に何かに気をつけたり、慎んだりするように警告する。	4.29	3.59	3.19
48	人に何かをするように指示する。	4.31	3.63	3.05
50	援助・協力を求める。	4.40	3.47	3.29

表 10 はタイプ II と判断された機能の一覧である。先のタイプ I に比べると、これらのやりとりは複雑であり、そのため学習者にとっては習得に時間のかかるものであると考えられる。タイプ I でのやりとりは YES/NO のやりとりが中心であるのに対して、こちらはそれだけでは終わらずより複雑である。目的を達成するまでに必要な会話でのターンのやりとりの回数も、タイプ I のものよりはるかに多くなると考えられ、単に文型を覚えてそれを使うといったものではなく、発話の流れをどう組み立てるか、相手の反応を見て、それに応じてこちらの対応をどう変化させるか、などの会話のストラテジーも要求されるような種類の会話である。

また、「許す」「賞賛する」「残念であるという気持ちを伝える」など、情報のやりとりに加え「態度」「気持ち」のやりとりといったものもこのタイプ II では多く見受けられる。学習者は単なる情報のやりとりよりも態度・気持ちのやりとりの方を習得困難と感じていると思われる。

表 11. タイプⅢ（一度ニーズが下がるが再び上がる項目）とその平均点

	留日センター生	ISEP・日研生	学部生
7 何かを否定する。	4.14	3.03	3.14
10 提案や誘いを断る。	4.17	3.06	3.24
31 感謝の気持ちを伝える。	4.48	3.30	3.48
35 詫びる。	4.57	3.66	3.71
51 挨拶する・声をかける。	4.07	2.94	3.14
52 人と出会って挨拶する。	4.19	3.06	3.29
53 人を紹介される／自己紹介をする。	4.31	3.09	3.38
54 別れの挨拶をする。	4.19	2.97	3.43
55 人の注意を引く・注意を引くために呼びかける。	3.98	2.84	3.05
57 お祝いの言葉をかける。	4.21	3.22	3.62
58 食事の開始の挨拶をする。	4.10	3.00	3.33

表 11 はタイプⅢと判定された機能の一覧である。先に、上級の学習者においてニーズの高い項目の特徴を見たときに述べたように、挨拶や感謝、お詫びなどの人間関係の確立や維持のための基本的な項目は、中級段階ではある程度習得できたと学習者は考えるものの、上級段階になると、改めてその習得の必要性を感じるようである。この事実は次のようなことを表していると考えられる。①学習者はまず、発話の内容を伝える、発話の目的を達成させる、ということに意識や関心が行っているものの、上級になるにつれて、内容だけではなく態度や気持ちのやりとりの必要性、重要性に気がつく。②そして単に目的が達成されたか否かではなく、その結果相手がどのように感じるかというところにまで意識が行くようになる。また、このような表現は単なる文法的な知識だけが必要とされるものではなく、社会言語学的能力や、語用論的能力も求められるものである。そのような能力・知識は明示的に教えられることが少ないため、上級学習者でも経験を通してしか学ぶことができないと考えられるが、そのこともこの結果には反映されているのではないだろうか。

表 12. タイプⅣ（なかなか習得の進まない項目）とその平均点

	留日センター生	ISEP・日研生	学部生
2 なんらかの事実について人に報告をする。	4.14	3.39	3.19
3 訂正をする。	4.29	3.48	3.43
5 自分の意見について賛成か反対か尋ねる。	4.24	3.55	3.48
6 他者の意見について自分は賛成か反対か述べる。	4.52	3.58	3.57

12	(基本的に自分のために)何かをすることを申し出る。	4.24	3.52	3.29
20	第三者にとってそれが義務であるか、義務ではないか、という ことを尋ねる／答える。	4.02	3.48	3.05
26	驚きを表明する。	3.83	3.33	3.00
32	同情の気持ちを伝える。	4.36	3.52	3.38
49	(相手のために)手伝いを申し出る。	4.15	3.41	3.19
56	乾杯の時などの挨拶・簡単なスピーチをする。	4.21	3.53	3.43

表 12 はタイプIVと判定された機能の一覧である。これらの項目は、先に見た複雑性と、相手との態度・気持ちのやりとり、という学習者にとっては習得の困難な要素を併せ持っているために、なかなか習得が進まないものと考えられる。

5-3. 対話相手による会話の「困難さ」

最後に本研究のメインの目的からは外れるが、予備調査の結果から見出された、「対話相手によって会話のやりやすさが異なる」という現象についても項目間の比較とグループ間の比較を通して考察してみる。

表 13. 「対話相手による会話の困難度」の各グループの平均

	留日セン ター生	ISEP・ 日研生	学部生
1 親しい日本語母語話者の友人と話すとき。	2.70	2.19	1.81
2 それほど親しくない友人・知人の日本語母語話者と話すとき。	3.55	3.00	2.57
3 ちょっと道を聞くなど見知らぬ人に日本語で話しかけるとき。	3.31	3.03	2.24
4 これから付き合いが始まるであろう日本語母語話者と初めて話すとき。	3.78	2.97	2.43
5 授業をとっている(とったことのある)日本語母語話者の教師と話すとき。	3.13	3.31	2.62
6 授業をとっていない(とったことのない)日本語母語話者の教師と話すとき。	3.64	3.47	2.71

各グループ共に、一番困難度が低いのは、「親しい日本語母語話者の友人と話すとき」である。やはり一番リラックスした状況で話ができるからであろう。日本語を間違えたらどうしようという不安感も少ないと考えられる。

反対に一番困難度が高いのは、中級グループである ISEP・日研生、上級グループである学部生では共に「授業を取っていない(とったことのない)日本語母語話者の教師と話すとき」である。心理的距離には「上下」の要素と、「親疎」の要素が反映すると考えられる

が、この場合は「上」でもあり「疎」でもあるので、心理的距離が遠く、話しづらいのであろうと考えられる。また、日本語の場合いわゆる「敬語」の問題もあり、それが「困難さ」に影響していると考えられる。中級グループ、上級グループでは「授業をとっている（とったことのある）日本語母語話者の教師と話すとき」も困難度が二番目に高くなっており、これらのグループでは特に「上下」の要因とそれに関わる「敬語」の問題が「話しにくさ」の原因になっているのではないかと考えられる。

一方、初級グループである留日センター生が最も困難度を高く付けているのは「これから付き合いが始まるであろう日本語母語話者と初めて話すとき」である。また「それほど親しくない友人・知人の日本語母語話者と話すとき」にも比較的高い得点が付けられており、中・上級では「上下」が話しづらさの要因として大きいのに対して、初級グループでは「親疎」が話しづらさの要因として強いのではないかと考えられる。さらに、初級グループでは「授業をとっている（とったことのある）日本語母語話者の教師と話すとき」の困難度が低い方から数えて 2 番目に位置しており、このことから「親しさ」が「困難度」（この場合は「容易度」）に影響を与えていることの裏づけとなると思われる。

6. まとめ

未だ仮説の段階ではあるが、今回の結果と考察から見出されたことをまとめると、次のようになる。

- ① 初級学習者では、大学生活でまず必要な会話技能へのニーズが高い。
- ② 中級学習者になると、より積極的・能動的な会話へのニーズが高くなる。
- ③ 上級学習者では、目的が達成されたか否かだけでなく、円滑な人間関係を創造・維持するための会話技能の習得にもニーズが高まる。
- ④ ターンのやりとりの少なくて済む単純な会話は習得が早い。
- ⑤ ターンのやりとりも多く、その順番もストラテジー的に考えなければいけないような複雑な会話は習得に時間がかかる。
- ⑥ 「会話のしやすさ・しにくさ」という点では、中・上級の学習者では「上下」がその心理的距離の要因になっていると考えられるのに対し、初級学習者では「親疎」がその要因になっていると考えられる。

7. おわりに

以上、今回集めたデータの分析から考察を進めてきた。しかし、今回のデータは数がまだ十分に多いとは言えず、今回見出されたことは、すぐに一般化できるという状態ではないということはここで改めて強調しておく。今後、よりデータを増やした調査が求められるし、さらには縦断的な調査が行われても良いであろう。今回は仮説生成的な調査であったこととデータ数が十分ではなかったため、敢えて統計的な検定は行わなかったが、次回

からは今回見出されたことを仮説として、それを統計的に検証するような調査を行うこともできる。

最後に、この段階での一般化はまだ早いと言うことは十分に心に留めながらも、今回見出されたことを TUFSD モジュールのシラバスデザインに反映させるにはどのようなやり方が考えられるかについて少し意見を述べる。

まず、現在のところ TUFSD モジュールは初学者を対象としているという事実と、初級グループではすべての機能において一律にニーズが高かったという今回の調査の結果から考えると、現在の 40 項目は学習者の「ニーズ」という面から考えれば、大きな問題は無いと考えられる。モジュール型であるということも学習者が自分で必要性を感じている機能を選ぶことができるという意味でよいのかもしれない。

しかし、今後、TUFSD モジュールが中・上級用へと拡大していくのであれば、そのシラバスデザインには一考が必要である。今回の調査からは、中級・上級ではニーズも異なり、また、中級段階で習得がある程度終わる機能もあれば、上級段階でもまだ終わらない機能もあることが分かった。さらには、一度中級段階では低くなったニーズが再び上級段階で高くなることもあるということも分かった。この結果をシラバスデザインに組み入れるには、単に機能の数を増やして拡大していくというやり方ではなく、一つの機能について、中級段階ではこのような表現の仕方、上級段階ではこのような表現の仕方、というように各機能内でバリエーションを増やしていくというやり方の方が望ましいと考えられる。つまり、拡大の方向としては、現在のような 1 機能 1 スキットをさらに 50 機能、60 機能、と増やしていくのではなく、1 機能 1 スキットから、1 機能 3 スキット、1 機能 5 スキットへと拡大していくという方向である。スキットの拡大が現実問題として難しいのであれば、練習問題の形でそれを取り入れるのも一案であろう^x。もちろん、そこで採用される会話はできるだけオーセンティックなものである必要があり、中・上級者向けであれば（あるいは初級者であっても）実際に話されているものが録音された自然会話そのものを使用してもいいであろう。自然会話のコーパス化とその分析という作業は現在 COE 談話班（代表：宇佐美まゆみ）で行われているが、今後はこのニーズ調査を更にデータ量を増やしながらか統計的手法も用いて進めていくのに加え、談話班での研究成果も踏まえた上で、中・上級者も視野に入れた上でのシラバスデザインが行われることが望ましい。それを提案して、本論文を終える。

謝辞：

本研究を実施するに当たって東京外国語大学の川口裕司先生、海野多枝先生、吉富朝子先生、根岸雅史先生、市川雅教先生、国立教育政策研究所の山森光陽先生には多くの助言をいただきました。また、アンケートの英訳の際には、東京外国語大学大学院生の林恵恵さんにお手伝いいただき、アンケート収集の際

^x 実際に日本語の D モジュールではバリエーションを示すために原稿段階では練習問題がミニスキットという形で作成されていた。

には東京外国語大学留学生日本語教育センターの藤村知子先生、荒川洋平先生、佐藤ゆみ子先生、東京外国語大学の川村大先生、柴田勝二先生、村尾誠一先生にご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。

参考文献

- Austin,J.(1962). *How to do things with words*. Oxford University Press.
- Back,K.and Harnish,R.(1979). *Linguistic communication and speech acts*. Cambridge, Mass. MIT press.
- Brundell, Higgens & Middlemiss.(1982). *Function in English*. Oxford.
- Munby (1978).*Communicative Syllabus Design*. Cambridge.
- Sperber,D. and D,Willson.(1986). *Relevance:Communication and Cognitive*. Blackwell
- Searle,J.(1979). Expression and meaning. In J.Searle,F.Keifer,and M.Bierwisch(Eds.), *Speech act theory and pragmatics*. Dordrecht:Reidel.
- van Ek.(1976). *The Threshold level for Modern Language Learning in Schools*. Strasbourg: Council of Europe.
- van Ek & Alexander.(1980). *Threshold Level English*. Pergamon.
- Yuki, Abe & Lin(2003). *Development and Evaluation of TUFSS Dialogue Module – Multilingual and Functional Syllabus*. Proceedings of the First International Conference on Linguistic Informatics. TUFSS
- 松本剛次 (2003) 「TUFSS-D モジュールにおけるスキットの位置づけとその作成に関する考察」『外国語教育研究 No.6』 外国語教育学会紀要
- 林俊成・結城健太郎・阿部一哉・長沼君主 (2004) 「TUFSS 多言語 e-learning システム会話教材開発」『言語情報学研究報告』 No.1 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」東京外国語大学大学院地域文化研究科

添付資料：大学場面で必要な会話技能に関するアンケート調査 調査票

大学場面で必要な会話技能に関するアンケート調査（質問用紙）

Questionnaire about conversation functions needed in campus

* 本調査は現在作成中のウェブ教材 TUFSD モジュールの改善を目的としたものです。

研究以外の目的には使用しないこととお約束いたします。

This questionnaire is aimed at to improve the TUFSD module which we are developing now.

We promise that we will use this questionnaire only for that reason.

！回答は、すべて回答用紙に記入してください。

Please check answers in answer sheet (not in this sheet)

I. あなた自身についてお答えください。

Please answer about yourself

- 1 年齢：①10代 ②20代 ③30代 ④40代以上
Age: ① teens ② twenty's ③thirty's ④forty's
- 2 性別：①男性 ②女性
Sex: ① male ② female
- 3 国籍：①日本 ②韓国 ③中国 ④その他()
Nationality: ① Japan ②Korea ③ China ④Others ()
- 4 母語(第1言語)：①日本語 ②朝鮮語 ③中国語 ④その他()
Native/first language : ①Japanese ②.Korean ③.Chinese ④Other()
- 5 目標言語(学習言語)：現在大学で専攻として学んでいるものを1つのみお答えください
Target language: Answer only one which is your major target language.
①日本語 ②英語 ③スペイン語 ④フランス語 ⑤その他()
①Japanese ②English ③Spanish ④French ⑤Others()
- 6 学年：①1年生 ②2年生 ③3年生 ④4年生 ⑤その他()
School year: ①freshman ②sophomore ③junior ④senior ⑤other()
- 7 目標言語の学習歴： learning experience of the target language
①1年未満 ②1年以上2年未満 ③2年以上3年未満 ④3年以上4年未満 ⑤4年以上5年未満
⑥5年以上6年未満 ⑦6年以上7年未満 ⑧7年以上8年未満 ⑨8年以上9年未満
⑩9年以上10年未満 ⑪10年以上
①less than one year ②1-2years ③2-3years ④3-4years ⑤4-5years ⑥5-6years ⑦6-7years ⑧7-8years
⑨8-9years ⑩9-10years ⑪ more than 10years
- 8 目標言語が使われている国・地域での滞在歴： staying experience in the area of target language
①1年未満 ②1年以上2年未満 ③2年以上3年未満 ④3年以上4年未満 ⑤4年以上5年未満
⑥5年以上6年未満
①less than one year ②1-2 years ③2-3years ④3-4years ⑤4-5years ⑥5-6years

- 9 目標言語が使われている大学への留学経験: ①ある ②ない
Have you ever study in the schools in the country or area where the target language is used? ①Yes ②No

- 10 9で「ある」と答えた人のみ留学年数についてお答えください。
How long have you study in the college (please answer those who answer 'yes' in question No.9)?
①1年未満 ②1年以上2年未満 ③2年以上3年未満 ④3年以上4年未満 ⑤4年以上5年未満
⑥5年以上
① less than one year ② 1-2years ③2-3years ④3-4years ⑤more than 5 years

- 11 他言語(外国語)の学習経験の有無: ①ある ②ない
Have you ever study other foreign languages except the target language in question No.5? ①Yes ②No

- 12 11で「①ある」と答えた方にのみお聞きします。今までにいくつの外国語を学習したことがありますか。
①1つ ②2つ ③3つ以上
How many foeign language have you learned before (Please answer those who check 'yes' in question No.12)?
①one ②two ③more than three

- 13 11で「①ある」と答えた方にのみお聞きします。それは何語ですか(複数回答可)。
Those who answer yes in question No.12, what language are they (You can choose more than one)?
①英語 ②スペイン語 ③フランス語 ④中国語 ⑤朝鮮語 ⑥日本語 ⑦その他()
① English ② Spanish ③French ④Chinese ⑤Korean ⑥Japanese ⑦other()

- 14 11で「①ある」と答えた方にのみお聞きします。その外国語はどのくらいの期間学習しましたか。
2つ以上の外国語学習経験のある方は最も期間の長いものについてお答えください。
Those who answer 'Yes' in question No.12, how long have you study that language?
In case you have more than one language , please answer about the longest one.
①1年未満 ②1年以上2年未満 ③2年以上3年未満 ④3年以上4年未満 ⑤4年以上5年未満
⑥5年以上
①less than one year ②1-2years ③2-3years ④3-4years ⑤4-5years ⑥more than 5years

- 15 あなたにとって現在の目標言語学習の目的は次のうちどれですか。
What is the aim of your present target language(which is "Japanese") learning?
①将来の就職のため ②個人的な趣味・楽しみのため ③その他()
①to get a job in the future ② just for the hobby or enjoyment of yourself ③Others()

- 16 あなたにとっての目標言語での到達目標はどこにありますか。
What is the goal of your present target language(which is "Japanese") learning?
①目標言語母語話者と同程度の言語力 ②目標言語母語話者と目標言語でコミュニケーションできる程度
③何とか目標言語が使われている地域で生活ができる程度
① Same level with the native speakers ②To be able to communicate with target language speakers
③ To be able to suvive in the target language area

II. あなたは今現在、大学生活に必要な以下の目的の会話を日本語で行うとき、

どの程度そのための会話技能の習得の必要性を感じていますか。

以下のスケールに基づき、5段階評価でお答えください。

How much do you think you need to acquire the conversational skill in the following campus situations when you have to speak in Japanese in Japanese University?

Please answer by using the scales below.

・評価スケール	scales
①:ほとんど必要を感じていない。	Don't feel the need at all
②:あまり必要を感じていない。	Don't feel the need so much
③:少しは必要を感じている。	Feeling needs a little
④:かなり必要を感じている。	Feeling needs quite a bit
⑤:非常に強く必要を感じている。	Feeling need very much

1 **事実・情報の確認をする。**

Conforming facts and informations

例えば、「課題の提出期限・提出方法について教師に確認する」

「奨学金に必要な書類について自分の理解が正しいかどうか職員に確認する」など

for example "conforming the periods and way of submitting reports to the teachers."

or "conforming if my understanding about scholarship is OK to the clerk."

2 **なんらかの事実について人に報告をする。**

Reporting the facts

例えば、「授業の予定・スケジュールを授業に欠席した友人に報告する」

「海外での経験などについてクラスメートの前で報告する」など

for example "reporting the schedule of the class to the friend who was absent."

or "reporting the experience in the foreign country in front of the classmates."

3 **訂正をする。**

Correcting

例えば、「自分が間違っと言ってしまったことについて言い直す」

「友人の発言について、その誤りを指摘し訂正する」など

for example "collection of your own word which was mis spoken."

or "collecting the remark of your friend which you think is wrong."

4 **事実・情報について尋ねる／質問する。**

Asking about the facts and information

例えば、「課題の内容・提出期限・提出方法について教師に尋ねる」

「奨学金に必要な書類について職員に尋ねる」など

for example "asking teachers when where and how you should submit your report.."

or " asking what documents are needed to apply the scholarship to the clerk."

5 **自分の意見について賛成か反対か尋ねる。**

Asking if others are agree or disagree with your opinion

例えば、「グループプロジェクトのテーマを自分はこれにしたいがみんなはどう思うか尋ねる」

「レポートで述べた自分の意見についてどう思うか教師に尋ねる」など

for example " asking if your group members are agree with your proposal of group project.

or " asking if the teacher is agree of not to the opinion with what you wrote on the report.

6 **他者の意見について自分は賛成か反対か述べる。**

Stating your opinion about agree or disagree with other's proposal or opinion

例えば、「友人の提案したグループプロジェクトの意見に対して賛成／反対の表明をする」

「教師の意見に対して同意／反対の表明をする」など

for example " express agree or disagree with the plan of group project which your friend' proposed.

or " express agree or disagree with the teacher's opinion about something."

7 **何かを否定する。**

Denying something

例えば、「これは私のものではない、私の仕事・責任ではないと言う」

「忙しいでしょう／大変でしょう」といった問いかけに対して「いいえ」で答える」など

for example "telling that this is not mine, my job, or my responsibility."

or " Answering to the question by denying like "Are you busy?" "Oh, no".

8 **何かを提案したり相手を誘う。**

Proposing something or introducing someone

例えば、「友人・知人をパーティーに招待する」

「学園祭のイベントへの参加を提案する」など

for example " Inviting friends or acquaintance to the home party."

or " Proposing to participate in the school events."

9 **提案や誘いを受ける。**

Accepting propose or request

例えば、「パーティーの招待を受ける」

「学園祭のイベントへの参加の提案を受ける」など

for example " accepting the invitation of the party."

or " accepting the proposal of participating of the school events"

10 **提案や誘いを断る。**

Refusing proposal or invitation

例えば、「パーティーの招待を断る」など

「学園祭のイベントへの参加の提案を断る」など

for example " refusing the invitation of the party."

or "refusing the proposal of participating the school events."

- 11 自分の提案や誘いが相手に受け入れられたか否かを確認する。

Conforming if my request is accepted or not

例えば、「旅行への参加を誘っていた友人にその返事を聞く」

「学園祭のイベントへの参加を誘っていた友人にその返事を尋ねる」など

for example "asking if your friends will join the travel which you have suggested the other day."

or "asking if your friends will join the school events which you have invited the other day".

- 12 (基本的に自分のために)何かをすることを申し出る。

Offering to do something (basically for myself)

例えば、「再来週は都合が悪いので、来週友人に代わって授業で発表することを申しでる」

「自分のやりたいイベントを学園祭で企画し、その責任者になることを申しでる」など

for example "Offering to do presentation in class next week, because you have to be absent on a week after next.

or "Volunteering to be the leader of the project, because that the thing you want to do"

- 13 何かや誰かについて知っているかどうか尋ねる／答える。

Asking/Answering if someone knows something

例えば、「人の名前を知っているか尋ねる／答える」

「教室がどこにあるか尋ねる／答える」など

for example "asking(answer) if he/she(you) knows the name of that person."

or "asking(answer) if he/she(you) knows where the classroom is."

- 14 何かや誰かを覚えているかどうか尋ねる／答える。

Asking/Answering if he/she remember something

例えば、「人の名前を覚えているか尋ねる／答える」

「約束事を覚えているか尋ねる／答える」など

for example "asking(answer) if he/she(you) remember someone's name"

or "asking(answer) if he/she(you) remember the promise."

- 15 何かができるかどうか尋ねる／答える。

Asking/Answering if it is possible or not

例えば、「図書館は日曜日にも使えるかどうかを尋ねる／答える」

「ここで煙草を吸うことができるかどうかを尋ねる／答える」など

for example "asking(answer) if one can use library on Sunday."

or "asking(answer) if one can smoke cigarette here or not."

- 16 能力の有無について尋ねる／答える。

Asking/Answering if one has an ability of to do something.

例えば、「友人に外国語は出来るかどうか尋ねる／答える」

「自分の分からないパソコン操作が出来るかどうか友人に尋ねる／答える」など

for example "asking if he/she can speak foreign languages to your friends."

or " asking if he/she can handle computer to your friends."

- 17 **あることが論理的に考えられることかどうかを尋ねる／答える。**

Asking/Answering if something is considered logically

例えば、「雨の場合はスポーツ大会は中止になるかどうかを尋ねる／答える」

「コピーの拡大ボタンを2回繰り返し押し続ければ4倍になるのかを尋ねる／答える」など

for example " asking(answering) in case of rain, the sports competition would be canceled or not."

or " asking(answering) if one press the enlarge button of the copier machine, one can make photo copy of 4 times larger than the original."

- 18 **それがどの程度確かか・不確かかについて尋ねる／答える。**

Asking/Answering about the certainty or uncertainty of the thing

例えば、「本当に雨が降ればスポーツ大会は中止になるのかを尋ねる／答える」

「留学生の手続きに関する規則が変更になるという話を聞いたが、それはどの程度確かなことなのか、尋ねる／答える」

for example " asking(answering) in case of rain the sports competition would be surely canceled."

or " asking(answering) how much certain the rumor which says that the rules for exchange students would be changed.

- 19 **自身にとってそれが義務であるか義務ではないかについて尋ねる／答える。**

Asking/Answering if something is duty for you or not

例えば、「スポーツ大会には参加しなければならないのかについて尋ねる／答える」

「留学生はある書類を提出しなければならないのかについて尋ねる／答える」など

for example " asking(answering) if you have to participate the sport competition."

or " asking (answering) if exchange students have to submit some special documents."

- 20 **第三者にとってそれが義務であるか、義務ではないか、ということ尋ねる／答える。**

Asking/Answering if something is duty for someone

例えば、「テストを休んだ友人が追試を受けなければならないかということを別の友人に尋ねる／答える」

「留学生でないものはある書類を提出しなければならないかと言うことを尋ねる」など

for example " asking(answering) if your friends have to take a supplementary examination."

or " Japanese students also have to submit some special documents."

- 21 **許可を求める。**

Requesting a permission

例えば、「教師に授業の欠席の許可を求める」など

「友人に友人のペンの使用の許可を求める」など

for example " asking if you can use your friend's pen."

or " asking a teacher if it is OK with you to be absent the next class."

- 22 **許可することを伝える。**

Expressing the permission is allowed

例えば、「友人が自分のペンを使うことを許可する」など

「自分の前で煙草を吸うことを許可することを伝える」など

for example "telling it's ok for your friend to use your pen."

or "telling it's ok for him/her to smoke here."

23 **許可しないことを伝える。**

Expressing the permission is not allowed

例えば、「今使うのでペンを使うことは許可できないと伝える」

「自分の前で煙草を吸うことを許可することは出来ないと伝える」など

for example "telling he/she can not use your pen because you need it now."

or "telling he/she cannot smoke here."

24 **好き嫌いについて尋ねる／答える。**

Asking/Answering about likes and dislikes

例えば、「スポーツが好きかについて尋ねる／答える」

「食べ物の好き嫌いについて尋ねる／答える」など

for example "asking(answering) if he/she like sports."

or "asking what food dose he/she like or dislike"

25 **興味があるかないかについて尋ねる／答える。**

Asking/Answering if he/she have an interest about something

例えば、「野球の話題について興味があるかどうか尋ねる／答える」など

「見に行くつものの映画についてその映画に興味があるかどうかを友人に尋ねる」など

for example "asking(answering)if he/she has an interest about baseball."

or "asking if he/she has an interest about the movie which your are going to see."

26 **驚きを表明する。**

Expressing surprise

例えば、「思ったよりテストの成績が良かった／悪かったことについて驚きを表明する」

「何かを見て、聞いてその驚きを人に伝える」など

for example "expressing your surprise because your test scoor was better/worse than you thought.

or "when you hear or watchi something, then tell how much surprised you were

27 **希望を述べる。**

Expressing hope or desire

例えば、「将来の夢を述べる」

「いつかしてみたいことについて話す」など

for example "expressing dream in the future."

or "telling the thing which you want to do in someday."

28 **満足しているかどうか尋ねる／答える。**

Asking/Answering the satisfaction

例えば、「留学生活に満足しているか尋ねる／答える」

「招待した友人に食事は満足したかどうかを尋ねる／答える」など

for example "asking(answering) if he/she is satisfied in life in foreign country.

or " asking(answering) if he/she is satisfied with the food."

29 **恐れや不安について尋ねる／答える。**

Asking/Answering the fear or anxiety

例えば、「次のテストの自信はあるかについて尋ねる／答える」

「将来について不安はあるかについて尋ねる／答える」など

for example " asking(answering) if he/she has a confident in the next exam."

or " asking(answering)if he/she has an anxiety about future."

30 **二つ以上の物や人、事柄についてどちらが好きか尋ねる／答える。**

Asking/Answering the preference between the two things

例えば、「この授業とあの授業どちらが好きかについて尋ねる／答える」

「この料理とあの料理とどちらが好きかについて尋ねる／答える」など

for example "asking(answering) which class does he/she prefer."

or " asking(answering)which food does he/she prefer."

31 **感謝の気持ちを伝える。**

Expressing gratitude

例えば、「パーティーに招待してくれた人に感謝の言葉を言う」

「財布を拾ってくれた人に感謝の気持ちを伝える」など

for example " saing thank you to the person who find your wallet."

or " saying thank you to the person who invite you to the party."

32 **同情の気持ちを伝える。**

Expressing sympathy

例えば、「風邪を引いて辛そうにしている友人に、同情の言葉をかける」

「失恋した友人に気持ちは分かると伝える」など

for example "saying a word of sympathy to the person who got a cold."

or "telling that you know the feeling to the friend who just got broken heart."

33 **意図・計画について尋ねる／答える。**

Asking/Answering about the plan or intention

例えば、「週末の計画について尋ねる／答える」

「将来の計画について尋ねる／答える」など

for example " asking (answering) about the future plan"

or " asking (answering) about the plan of the weekend."

34 **欲求・望みについて尋ねる／答える。**

Asking/Answering about the want or desires

例えば、「今何を食べたいか友人に聞く／答える」

「長い休みがあつたら何をしたいか聞く／答える」など

for example "asking(answering) what does he/she want to eat."

or "asking(answering) what does he/she want to do when he/she has a long vacation."

35 **詫びる。**

Apologizing

例えば、「提出物の期限が送れたことを教師に詫びる」

「誤って相手のものを壊してしまい、詫びる」など

for example "saying sorry to the teachers about the delay of your report."

or " Breaking something by accident and apologize."

36 **許す。**

Forgiving

例えば、「友人が自分のものを壊してしまったことを許す」

「約束の時間に遅れた人を許す」など

for example "forgiving your friend of breakin something."

or " forgiving your friend who was late."

37 **承認するということを伝える。**

Expressing that something was allowed

例えば、「学園祭の催し物の友人の提案が承認されたということを伝える」

「ペンを借りたいという友人の申し出に対し、かまわないということを伝える」など

for example "expressing that his/her proposal about the school festival was allowed."

or " saying that it is OK to the friend who asked you to lent a pen."

38 **承認しないということを伝える。**

Expressing that something was not allowed

例えば「学園祭の催し物の友人の提案は承認されなかったということを伝える」

「ペンを借りたいという友人の申し出に対し、貸すことは出来ないということを伝える」など

for example " expressing that his/her proposal about the school festival was not allowed."

or " saying that it is not OK to the friend who asked you to lend a pen."

39 **相手が承認するか否か尋ねる。**

Asking if he/she will approve

例えば「学園祭での催し物について提案し、それが認められるかどうか責任者に尋ねる」

「ペンを借りてもいいかどうか、相手の許可を確認する」など

for example "proposing the idea about the school festival and ask if it will be approved or not."

or " confirming the approval of your friend when you want to lent a pen."

40 **賞賛する。**

Admiring

例えば、「友人の着ているものや持っている物をほめる」

「テストの成績が良かった友人を賞賛する」など

for example "praising the fashion of your friends."

or "complimenting your friend who got a good score in the test."

41 残念であるという気持ちを伝える。

Expressing regret

例えば、「不幸のあった友人にお悔やみの言葉を伝える」

「テストの成績が悪かった友人に残念の声をかける」など

for example "expressing a word of regret to whom someone in the family was passed away."

or "expressing a word of regret when you talk to your friend who's test score was not good."

42 無関心である・興味が無いということを伝える。

Expressing indifference

例えば、「自分は野球には興味が無い、ということを伝える」

「政治には関心が無い、ということを伝える」など

for example "expressing that I am not interested in baseball."

or "expressing that I am not interested in politics."

43 一連の動作を提案する(話し手も含む)。

Proposing a chain of action (with yourself)

例えば、「授業が終わったら一緒にデパートに行って買い物しようと提案する」

「テストが近いので一緒に図書館に行って本を借りて勉強しようと友人に提案する」など

for example "proposing to your friend that go to the department store when the class was over."

or "proposing to your friend that go to the library together to study."

44 何かをしてもらうことを依頼する。

Requesting someone to do something(for you)

例えば、「自分の代わりに教師のところにレポートを持っていってもらうように頼む」

「図書館に行って自分の代わりに本を借りてくれるように頼む」など

for example "asking your friend to go to the teacher's room and submit a report instead of you."

or "asking your friend to go to the library and lend a book for you."

45 人に何かをするように誘う、促す。

Inviting or urging someone to do something

例えば、「図書館に行って試験のための勉強しようと誘う」

「恋人に電話をかけるように誘う、促す」など

for example "urging your friend to go to the library and study with you."

or "urging your friend to call his/her girl/guy friend."

46 人に何かをするように助言する。

Advising to do something

例えば、「風邪を引いて苦しそうにしている友人に病院に言った方がいいと助言する」

「お金が無いといっている友人にアルバイトをするように助言する」など

for example "advising to your friend who caught a cold to go to the hospital."

or "advising to your friend to do a part time job."

- 47 人に何かに気がついたり、慎んだりするように警告する。

Warning or Cautioning

例えば、「図書館で騒がしくしている人に静かにするように言う」

「禁煙エリアで煙草を吸っている人に慎むように言う」など

for example "saying to be quiet to those who are noisy in a library."

or "saying people to refrain from smoking in nonsmoking area."

- 48 人に何かをするように指示する。

Directing or instructing to do something

例えば、「友人に教師のところへ行くように指示する」

「チームリーダーとしてチームメイトに作業の指示をする」など

for example "instructing your friend to go to the teacher's room"

or "as a team leader instruct team mate to work."

- 49 (相手のために)手伝いを申し出る。

Offering to do something

例えば、「重そうな荷物を持っている友人に手伝おうかと声をかける」

「教師に対しコピーなどの作業の手伝いを申し出る」など

for example "offerting a helping hand to those who is carrying a heavy luggage."

or "saying that you will help teacher's work like coping or something."

- 50 援助・協力を求める。

Requesting help or assistance

例えば、「重い荷物を運ばなければならない時、友人に手伝ってもらおう頼む」

「友人に枚数の多いコピーを手伝ってもらおう協力を求める」など

for example "requesting your friend for help when you need to carry a heaby luggage."

or "requesting your friend for help when you need to make a lot of copy."

- 51 挨拶する・声をかける。

Greeting

例えば、「朝、友人を見つけて声をかける」

「通りすがりで知人とすれ違い、挨拶をする」など

for example "say hello to your friend when meeting in the morning."

or "greeging each other when accidentaly meet with your friend in a street."

- 52 人と出会って挨拶する。

Greeting and exchanging words

例えば、「朝、教師と出合って挨拶をする」

「久しぶりに昔の友人に出会い、挨拶をする」など

for example "meeting with your teacher in morning and talk."

or "meeting with your old friends after a while and talk."

53 **人を紹介される／自己紹介をする。**

Introducing or to be introduced

例えば、「友人にその友人を紹介され、自己紹介をする」

「初めてのクラスで自分の自己紹介をする」など

for example "being introduced a new friend thorough your friend."

or "at the first class in a school year introduce yourself in front of the class."

54 **別れの挨拶をする。**

Ferawell greetings

例えば、「家に帰るとき、友人に別れの挨拶をする」

「通りすがりで知人と会い立ち話をし、別れる際に挨拶の言葉を述べる」など

for example "saying good by when you go home."

"saying you have to go when you stop your conversation with your friends."

55 **人の注意を引く・注意を引くために呼びかける。**

Calling or to get attention

例えば、「学生課で職員に来てもらうために呼びかける」

「遠くに友人を見つけ、呼びかける」など

for example "call a clark in campus office."

or "call your friends across the street."

56 **乾杯の時などの挨拶・簡単なスピーチをする。**

Proposing a toast

例えば、「クラスの飲み会で乾杯の挨拶をする」

「送別会、歓迎会で開始の挨拶をする」など

for example "proposing a toast of small party."

or "speaking a simple speech for the beginning of the party."

57 **お祝いの言葉をかける。**

Expressing celebration

例えば、「誕生日の友人にお祝いの声をかける」

「テストの成績の良かった友人に祝福の言葉を述べる」など

for example "saying happy birthday to your friends."

or "saying a word of congratulation to your friend who's test score is good."

58 **食事の開始の挨拶をする。**

Starting a meal

例えば、「友人の家で食事をご馳走になるときに挨拶をする」

「食事をご馳走する時に開始の言葉をかける」など

for example “ saying a word of thanks when you eat in your friends house.”

or “ saying a word of starting when you start eating.”

Ⅲ. あなたは今現在、次の者と日本語で話すとき、どの程度の「困難さ」を感じていますか。

以下のスケールに基づき、5段階でお答えください。

以下のような状況に遭遇したことの無い方は、遭遇した場合を想定してお答えください。

How much you think the “difficulty” when you speak in Japanese with the following people in the following situation?

Please use the scale of ①-⑤ below.

If you don't have experience of talking with those persons, please imagine and answer the question.

・評価スケール Scales

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| ①: ほとんど困難を感じない | don't feel difficulty at all |
| ②: あまり困難を感じない | don't feel difficulty so much |
| ③: 少し困難を感じる | feel a little difficulty |
| ④: かなり困難を感じる | feel quite a bit of difficulty |
| ⑤: 非常に困難を感じる | feel difficulty very much |

1 親しい日本語母語話者の友人と話すとき。

Talking with your close native Japanese friends.

2 それほど親しくない友人・知人の日本語母語話者と話すとき。

Talking with your native Japanese friends who are not so close.

3 ちょっと道を聞くなど見知らぬ人に日本語で話しかけるとき。

Talking in a stranger (for example ask the way or something).

4 これから付き合いが始まるであろう日本語母語話者と初めて話すとき。

First talking with those who will keep in touch hereafter.

5 授業をとっている(とったことのある)日本語母語話者の教師と話すとき。

Talking with native Japanese teachers who's class you are taking.

6 授業をとっていない(とったことのない)日本語母語話者の教師と話すとき。

Talking with native Japanese teachers who's class you are not taking.

以上でアンケートを終わります

That's all for our questionnaire.

ご協力どうもありがとうございました。

Thank you very much for your cooperation.